

令和5年度第4回滋賀県職業能力開発審議会 概要

1 日時

令和6年3月14日(木)10時から12時まで

2 場所

滋賀県庁 危機管理センター1階 会議室1

3 出席委員

佐藤、丸本、山本、和田孝、和田光平、池内、齋藤、菱田、伊藤、西林、沼井の各委員
(敬称略、出席12名)

4 事務局

労働雇用政策課長 他3名

5 オブザーバー

県立高等技術専門校校長

(独)高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター所長

6 議事概要

令和5年度の高等技術専門校の入校率および再編後の目標について

滋賀県立高等技術専門校再編素案について

資料1～3および参考資料1～3により説明

【主な意見等】

議題1 令和5年度の高等技術専門校の入校率および再編後の目標について

委員

目標がベストかどうか分からないが、再編により、改善ができるという期待は持てると思うが、単年度毎の評価をしていかないといけない。

委員

単年度毎の評価は、審議会の役割なのか。

事務局

単年度毎の評価に関して、審議会への報告はして参りたい。

委員

入校率を80%まで改善できるイメージを教えてください。

事務局

障害者の訓練やものづくり系の訓練が低調している中、今回はものづくり系の訓練の見直しを行うことで、改善すると考えている。障害者の訓練は、法定雇用率が上がっていく中で、必要性は増す中、どのような人たちに訓練が必要なのか、具体的に進めることはできていないが、関係機関と連携して、改善を行っていきたい。

委員

目標は目安になってはいけない。必達という目標を持ち、そのような想いをもって、プレッシャーをもってやってほしい。控えめな目標ではなく、基本的な姿勢は入校率100%という姿勢で行ってほしい。

委員

パンフレットにも記載されているが木造建築科の受講生は実務経験がなくとも、2級建築士の受験が可能になるのだから、そこをしっかり売りにしたらよい。令和5年度の入校率は30%となっており、目玉商品をぶらさげているのに、宣伝をしっかりできているのか。

委員

求人ニーズのトレンドをうまくカリキュラムへ取り入れれば、就職率が上がる訓練ができる。経済的には良くない状況が続いているが、ハローワーク(以下「HW」)との情報連携を大切にしてほしい。

事務局

HWとの連携は従来から行っている。訓練説明会、雇用保険説明会など毎週足を運んでいる。来年度に

向けて、草津 HW の掲示板をお借りして、校で掲示を行えるスペースを確保頂いており、連携して校の広報をしていきたい。

委員

HW が保有する求人ニーズに関する膨大な情報を使用して、独自の分析を行い、トレンドを知ることが重要。それをカリキュラムに反映することによって就職率が上がり、入校率にもつながってくるのではないかと。

事務局

毎月、HW の求人、求職情報により、雇用情勢を把握し、適宜意見交換している。就職指導、説明会の中で専門校についてしっかり説明してもらえよう、HW としっかり連携してやっていく。

委員

目標を設定することは良いが、言うが易しと思っている。職業対策連絡協議会は、行政職員として市町の労政、高校の就職担当、HW 職員が集まって、月 1 回開催されている。HW 職員や高校の就職担当が指導の現場を見たことがなければ、求職者へ説明ができない。指導の現場を実際に来てもらう交流ができればよいと思う。高等養護学校については、高卒扱いにならないことから、就職が難しい生徒もいると聞いている。職業訓練校が1つの進路となってもらえるよう働きかけをしてもらいたい。

事務局

職業対策連絡協議会はこれまでから県も関わっている。現場を見てもらうのは1つの方法となるので、検討していきたい。

委員

広報のアプローチは、パンフレットを支援者側に配ってもらったほうが効果があがる。広報したものの、入校に至らない場合は、入校されなかった人に声を聞いていくことができれば、その背景を確認できる。理系の機電系のセミナーは殺到しており、機電系のニーズは非常に高い。

委員

仕事が自分に合っているかどうかは、実際に働いてみないとわからない。人の素養、人の特性をはかるテクニックみたいなものは、校にはあるのか。

事務局

求職者の相談は HW のアドバイザーが何がその人に向いているのか、過去の経験の元に判断している。訓練分野とのミスマッチを予防するため、事前説明会に来てもらって、訓練内容等について案内している。また職業適性検査を行って、その結果を HW と共有し、受講指示等ももらっている。

委員

定着率というのが重要で、訓練を受講したものをやめてしまったということがあったらもったいないので、

個々の人の適正、素養を図ることができれば、それを改善することができる。逆に適性があれば、経済を今まで学んでいた人が組立工になり、設計者になる例もあり、また農業を学んでいた人が、組立工のリーダーを行っている者もあり、素養が確認できると、どんどん出世もできて、お互い幸せになれる。

委員

障害者雇用は弊社でも行っており、障害者訓練について、何かアドバイスできることがあれば、協力させていただくことも可能と思っている。

委員

特別支援学校を卒業して、入社した方がいるが、うまく活用できていない。職業訓練を通して、どのような能力が身に付けることができるのか、というのがあれば、入校率を上げていくことができると思う。

事務局

障害者雇用の関係で様々な取組を行っている。障害者雇用を進めるには業務内容の切り出し等が重要であると捉えている。障害者雇用を進められていない企業には壁があると思われるので取り除いていく取組を進めている。

障害者訓練では、就職に向けての取組について、丁寧な対応を行っている特徴があり、入校率は低いものの、高い就職率につながっている。

議題2 滋賀県立高等技術専門校再編素案について

委員

基本方針として、求職者のニーズ、企業ニーズを合わせて充実させていくのが大事である。求職者がもめているものと、企業ニーズとが乖離しているので、それを繋げてもらう必要がある。若手の働き手が減っている中で、大手企業に先に人材を確保されてしまう現状がある。HWがポイントとなっているが、HW へ行かず、就職活動する方もいる。再編に向けては、求職者のニーズ、企業のニーズを合わせてほしい。モノづくりの魅力発信として、SNS の普及で、表面的にキラキラしたものに魅力を感じる人が増えている。訓練内容の充実を図ることで、中小企業を支援頂きたい。中小企業は人手が足りていなく、基本教育を行う余裕がない。在職者訓練もしっかり対応いただき、リスキリングもポイントとして、取り組んでほしい。

委員

ものづくりは日本ではよいものが作れる。理由としては、日本には精密な加工機があり、精密な制御装置があり、それでものづくりをすれば、海外に負ける訳がない。ものづくりの強いベースがあるのだから、それを求職者の人に魅力に感じてもらうことができれば、また経済の根底を支えているのは、ものづくりをおこなっている製造業であることや、ものづくりの意味についてのカリキュラムを入れてもらえればと思う。また広報の中でモノづくりの重要性を語ってほしい。

事務局

最近はどのような技術が必要なのか、アンテナは常に広げている。NC 旋盤、CAD/CAM 等の新しい技術を取り入れて訓練をしていきたい。

委員

入口と出口がセットにならないとよくない。パンフレットには入校の手続きというのが載っているが、就職の支援というのが含まれていない。次回作成時にどういう支援をしているのか、もう少し強調してもらえるとよい。

委員

精神保健福祉士について、具体的にどのような体制で行うことを予定しているのか。

事務局

まだ具体的には決まっていないが、業界団体と連携して、両校舎に定期的に精神保健福祉士を派遣頂き、カウンセリングしてもらえないか考えている。

委員

入校率の目標を掲げているが、再編後の姿として、精査中となっているが、どのようなステップで考えているのか。

事務局

基本的には大きな変更はしないが、見直しの訓練科においては、総定員の変更を行い、同等または減で検討をしている。

委員

パンフレットをみると、修了生の声が増え、就職実績、就職率が載っており、どこの企業に入るために学ぼうかと思える。パンフレットの色が明るく、希望的に見える。訓練生の支援の充実は、何か理由があり、離職した訓練生は精神的にも不安を抱えていることが多いと思うので、精神的なサポートが行えるのは重要だと思う。相談ができる体制がある方が安心が得られると思う。先日県立高校の入試結果の発表があったが、80%の方が第一希望で合格、20%の方が第2希望に行くのか、どのような進路に進むのか、分からないが、訓練校が進路の候補とすることができれば、良いと思う。

委員

工業高専の意見を聞く場があり、人気があって、困りごとはないように思えるが、やめる人がすごく多く悩みを抱えている。職業訓練校はターゲットが若手から年配の方までターゲットが広く、入校率を上げるのは難しいことをやっているという認識をもってもらいたい。精神面のケアは非常に重要で、例えば教職課程の中でカウンセリング教育のカリキュラムがあるが、こうした指導が可能な人材を有する滋賀大学との連携というのもあるのではないかと考える。連携することができれば、それも魅力になるのではと考えている。

委員

訓練科の変更は入校してからは難しいと思うが、入校後変更できれば、合わなければやめてしまうというのが減り、合えばとんどん伸びていく。ものづくり加工科に関して、イメージをもうちょっとカッコよくできないかと思っている。

事務局

訓練が進んでいる状況での訓練科の変更は難しいと考えている。また、雇用保険の関係で、ずっと訓練しているというのも様々な課題があると考えている。ものづくりに係るイメージアップは始められるところからやっていきたい。

以上